

教育内容					ディプロマポリシー				
					DP1	D2	D3	D4	D5
					看護の対象である人間を全人的に理解する能力	生命の尊厳と権利を尊重し、対象の思いや意思を支え人間関係を構築する能力	対象の健康状態を判断し、根拠に基づいて看護を実践する能力	多様な環境や人々の中で協同して課題を改善していく能力	看護の本質を探究し、生涯にわたり学び続け、自分も他者と共に成長していく能力
					人間理解	倫理と人間関係構築	科学的看護実践	協同と課題解決	探究・成長
基礎分野	科学的思考の基礎	生命現象と科学	1	30	1前	○			
		自然現象と科学	1	20	2前			○	○
		研究論文作成入門	1	20	2後			○	○
		法と暮らし	1	30	1前	○	○		
		人間の発達と適応	1	20	1前	○	○		
	人間と生活、社会の理解	生活科学	1	20	1前	○	○		
		人間と社会	1	20	1後	○	○		
		人間と教育	1	30	1後	○		○	
		芸術と癒し	1	20	1全	○	○		
		語学コミュニケーション(英語)	1	30	1全	○	○		
専門基礎分野	人体の構造と機能	語学コミュニケーション(中国語)	1	30	2全	○	○		
		初年次教育ナビ	1	20	1前		○		○
		グローバル社会の理解	1	20	2前	○		○	○
		情報の活用と情報倫理	1	20	1前		○	○	○
		解剖生理学Ⅰ 循環器系 血液・免疫 呼吸器	1	30	1前	○			
		解剖生理学Ⅱ 脳神経・運動器・感覚器	1	30	1前	○			
		解剖生理学Ⅲ 消化器 腎・泌尿器 内分泌 生殖器	1	30	1全	○			
		看護のための形態機能学Ⅰ	1	20	1全	○		○	○
		看護のための形態機能学Ⅱ	1	20	1後	○		○	○
		栄養と代謝	1	30	1前	○			
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染症と生体防御	1	30	1後	○	○		
		病理学	1	20	1後	○	○		
		疾病論Ⅰ(循環器障害 運動器障害 呼吸器障害)	1	30	2前	○			
		疾病論Ⅱ(脳神経障害 内分泌障害 血液・免疫障害)	1	30	2前	○			
		疾病論Ⅲ(消化器障害 腎・泌尿器障害 生殖器障害)	1	30	2後	○			
		疾病論Ⅳ(感覚器障害 精神病理・ストレス)	1	30	2後	○			
		臨床検査	1	20	2前	○	○		
		治療論Ⅰ	1	20	2前		○	○	
		治療論Ⅱ	1	20	2前		○	○	
		疾病の回復と薬理	1	30	1後	○		○	
	健康支援と社会保障制度	臨床心理学	1	20	3前	○	○		
		社会福祉の現状と課題	1	30	2後	○		○	
		保健・医療・福祉と法規	1	30	1後	○	○	○	
		公衆衛生学	1	20	2全	○	○		
		医療と倫理	1	20	2全	○	○		
		家族支援総論	1	20	2全	○	○		
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1	20	2前		○		○
		保健医療福祉行政論Ⅱ	1	20	3前		○		○
		保健医療福祉行政論Ⅲ	1	30	4後		○	○	○
保健統計Ⅰ		1	30	1後			○	○	
健康現象の疫学と統計	保健統計Ⅱ	1	30	2前			○	○	
	疫学Ⅰ	1	20	1後	○	○	○	○	
	疫学Ⅱ	1	20	3全	○		○	○	
	専門分野	基礎看護学	看護学原論	1	30	1全	○	○	
共通基本技術Ⅰ 技術論 安全・安楽・自立(律)			1	20	1前		○	○	○
共通基本技術Ⅱ 看護倫理・コミュニケーション			1	20	1前	○	○	○	○
共通基本技術Ⅲ バイタルサイン・フィジカルアセスメント			1	30	1前	○	○	○	○
共通基本技術Ⅳ アセスメント・看護診断過程			1	20	2前	○	○	○	○
共通基本技術Ⅴ 看護過程			1	20	2全	○		○	
生活支援技術Ⅰ 環境調整、活動と休息			1	30	1前	○	○	○	○
生活支援技術Ⅱ 食と排泄			1	30	1後		○	○	
生活支援技術Ⅲ 清潔			1	30	1後	○	○	○	
診断治療に伴う技術Ⅰ 無菌操作、酸素・吸引			1	30	1後		○	○	○
診断治療に伴う技術Ⅱ 薬物療法と看護 各種与薬法 検査			1	30	2前	○	○	○	
地域・在宅看護論		地域・在宅看護概論	1	30	1全	○	○		
		地域・在宅看護活動論Ⅰ	1	30	2全		○	○	
		地域・在宅看護活動論Ⅱ	1	30	3全		○	○	
		健康回復支援総論	1	30	1後	○	○	○	○
(領域横断科目)		死と看護	1	20	3前	○	○	○	○
		看護倫理	1	30	4全		○	○	○
		災害看護と救命救急	1	20	3前		○	○	○
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	1	20	1後	○	○	
公衆衛生看護学概論Ⅱ			1	20	1後	○		○	○
多職種連携支援論			1	30	4前		○	○	
公衆衛生看護技術論			1	20	2後	○	○	○	○
公衆衛生看護展開論Ⅰ			1	20	1後	○	○	○	
公衆衛生看護展開論Ⅱ			1	20	2前	○	○	○	
公衆衛生看護展開論Ⅲ			1	20	3前		○	○	
対象別保健活動論Ⅰ 成人保健・高齢者保健			2	40	2後		○		○
対象別保健活動論Ⅱ 母子(親子)保健			2	40	3前	○	○	○	
対象別保健活動論Ⅲ 障がい者(児)・精神・難病保健、感染症対策			2	40	3前		○	○	○
対象別保健活動論Ⅳ 学校保健・産業保健			1	30	3後	○	○	○	
成人看護学		地域づくり論	1	30	4後	○	○	○	○
		公衆衛生看護管理論	1	30	4後		○	○	○
		成人看護学概論	1	20	2前	○	○	○	○
		成人看護学方法論Ⅰ(クリティカルケアと看護)	1	30	2後	○	○	○	
		成人看護学方法論Ⅱ(周手術期と看護)	1	30	3前	○	○	○	
老年看護学	成人看護学方法論Ⅲ(リハビリテーションと看護)	1	30	2後		○	○		
	成人看護学方法論Ⅳ(セルフマネジメントと看護)	1	30	3前		○	○		
	老年看護学概論	1	30	1全	○		○	○	
小児看護学	老年看護学方法論Ⅰ	1	30	2前	○	○	○		
	老年看護学方法論Ⅱ	1	20	2後		○		○	
	小児看護学概論	1	30	2前	○	○	○	○	
	小児看護学方法論Ⅰ	1	20	2全	○	○	○	○	
母性看護学	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	2全	○	○	○	○	
	小児看護学方法論Ⅲ	1	30	3前	○	○	○	○	
	母性看護学概論	1	20	1後	○	○	○	○	
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30	2全		○	○	○	
精神看護学	母性看護学方法論Ⅱ	1	30	3前		○	○	○	
	母性看護学方法論Ⅲ	1	30	4前	○	○	○	○	
	精神看護学概論	1	30	1後	○		○	○	
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30	2後	○	○			
看護の統合と実践	精神看護学方法論Ⅱ	1	30	3前	○	○	○		
	看護管理	1	20	4全		○	○	○	
	看護研究Ⅰ	1	20	3全		○	○	○	
	看護研究Ⅱ	1	30	4全		○	○	○	
実習	国際看護	1	30	4全	○	○	○	○	
	基礎看護学実習	基礎看護学Ⅰ実習	1	45	1後		○	○	○
		基礎看護学Ⅱ実習	3	120	2前	○	○	○	○
	地域・在宅看護論実習	地域・在宅看護論Ⅰ実習	1	30	1全	○	○	○	○
		地域・在宅看護論Ⅱ実習	2	90	3全～4前	○	○	○	○
	成人・老年看護学実習	老年看護学実習	2	90	3前	○	○	○	○
		健康回復支援看護実習	2	90	3全～4前	○	○	○	○
	小児看護学実習	周手術期看護実習	3	120	3全～4前	○	○	○	○
		小児看護学Ⅰ実習	1	45	2全	○	○	○	○
	母性看護学実習	小児看護学Ⅱ実習	1	45	3全～4前	○	○	○	○
	精神看護学実習	母性看護学実習	2	90	3全～4前	○	○	○	○
看護の統合と実践実習	精神看護学実習	2	90	3全～4前	○	○	○	○	
公衆衛生看護学実習	統合実習	3	120	4前	○	○	○	○	
	公衆衛生看護学Ⅰ	2	90	4全	○	○	○	○	
	公衆衛生看護学Ⅱ実習	2	90	4全	○	○	○	○	
	公衆衛生看護学Ⅲ実習	1	45	4前	○	○	○	○	

主要概念

	概念
人間	1. 人間は身体的・精神的・社会的・霊的側面を統合した、全体的な存在である。 2. 人間は基本的人権を有する存在である。 3. 人間は唯一無二の尊厳ある存在である。 4. 人間は環境との相互作用の中で絶えず変化し、発達し続ける存在である。 5. 人間は社会の中で生活する存在である。 6. 人間は基本的欲求を持ち、自己実現に向けて生きる存在である。 7. 人間は信念・価値観など固有の自己概念を持つ存在である。
環境	1. 環境は外部環境と内部環境に分類される。 2. 外部環境とは生体の生活に関与する外界で、自然環境と社会環境に分類される。 3. 自然環境は、気候・大気・水などの物理化学的環境と、動植物などの生物学的環境に分類される。 4. 社会的環境には、それぞれ役割を持った個人、家族、集団、組織が存在する。 5. 社会環境には人間がよりよく生きるために、法律、政治、経済、文化、教育、医療、福祉などの機能がある。 6. 内部環境とはホメオスタシスに基づいた生体内の環境である。 7. 内部環境と外部環境は相互に影響を与え、常に変化しながら安寧の方向に向かう。
健康	1. 健康とは身体的、精神的、社会的、霊的に完全な良好な動的状態であり、単に疾病または虚弱ではないということではない。 2. 望ましい健康状態とは、環境に適応し、身体的、精神的、社会的機能をその人らしく発揮している状態をいう。 3. 健康であることは基本的権利であり、保障されるものである。
看護	1. 看護は実践の科学であり、人々のより良い健康のための新たな知の創造に寄与する。 2. 看護は人間、環境、健康についての理念をもち、専門的な知識と技術による意図的な行為である。 3. 看護は対象に寄り添い、相互作用のなかで成立する活動である。 4. 看護はあらゆる成長発達段階や健康状態にある個人・家族、集団、組織、地域を対象としている。 5. 看護の責務は、健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復、苦痛の緩和、そして、対象のもてる力を最大限活用し、その人らしい生を全うするように援助することである。 6. 看護はアセスメント・(診断)・計画・実施・評価による一連の過程によって計画的に実践される。 7. 看護は適切な状況判断や倫理的判断のもとに、根拠に基づき、実践される。 8. 看護はその専門性を発揮しつつ、地域包括ケアシステムの一員としてその役割を果たす。
学習	1. 学習とは、経験によって新しい知識、技術、態度を習得し、認知様式や行動の変容をめざす活動である。 2. 学習とは、人間の習熟に向けて、主体的に取り組む活動である。 3. 学習は、学習者が自らの可能性に気づき、研鑽することである。